

# KLIS TODAY

No.  
5

筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば市春日 1-2 Tel 029-859-1110 Fax 029-859-1162  
URL <http://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail [klis-info@inf.tsukuba.ac.jp](mailto:klis-info@inf.tsukuba.ac.jp)

## SLISパーカー&ポロシャツプロジェクト

安藤 恵・深尾 早央里

「じゃあ、SLISパーカー作ろうか」。これが研究室訪問、強いて言えば卒業研究を目前とした安藤・深尾の合言葉でした。

SLIS (School of Library and Information Science) = 図書館情報専門学群は、私たち2006年度入学の代で終わります。そして私たちは2009年度で4年生です。図書館情報専門学群はとても居心地のよいところでした。魅力ある教員のかたがた、全国から集まった大人びた仲間たち。その区切りである私たちの代で何もしないのはもったいない。誰も何もしないなら私たちがやろう。そうして始まった企画です。先生方には多くのご支援を賜りましたが、企画からデザインまで二人で話し合って製作までを行いました。

5年前には図書館情報大学が終わり、今度は図書館情報専門学群が終わります。その「終わり」の度に、時代の流れに合わせて拡充・発展してきたのがこの学校の歴史です。次代の知識情報・図書館学類のみなさんにも、愛着を持てる学問の場として発展させてほしいと思います。

(あんどう・めぐみ ふかお・さおり 図書館情報専門学群3年次)



深尾さん(左)と安藤さん(右)

SLISパーカー&ポロシャツプロジェクトの詳細はこちら <http://www.ipe.tsukuba.ac.jp/~s0612148/slisptop.htm>



## ～今年度をもってご退職される先生方です～

長い間、ご指導をありがとうございました。退職に当たって、先生方から読者の皆さんへのメッセージをいただきました。先生方の今後のご健康をお祈り申し上げます。



太田 勝也 教授  
(情報経営・図書館主専攻)  
専門：歴史情報、史料研究、  
史料のデータベース作成



永田 治樹 教授  
(情報経営・図書館主専攻)  
専門：図書館のサービス・マーケ  
ティング、組織デザイン、評価



小野寺 夏生 教授  
(知識科学主専攻)  
専門：情報の計量、統計解析、  
研究動向分析

### 知識の摂取と創造

太田 勝也

「退職にあたって、学生及び KLIS TODAY 読者へのメッセージを」とのご依頼を受けましたが、成り行き任せで生きていますので、改めてメッセージをと言われても、気の利いたことは何もお伝えできません。

振り返れば、30年余、図書館学・図書館情報学などと称されて来た「学」の教育と研究に、図らずも関わってきた。と言っても、その末端の図書館資料に関わる歴史資料であるとか、知識情報に関わる歴史情報というようなことを主に担当して来た。とは言え、出身が歴史学であるので、どうしても歴史学よりの内容に陥り易い。授業では「歴史は社会の記憶です。社会が記憶喪失の状態では未来へ進もうとすると、極めて不安です。だから歴史研究者は、できるだけ正確な記憶を、できるだけ多く甦らせようようと日々努力しています。」てなことを口走ることになるわけです。あまり図書館学・図書館情報学っぽくなかったりして。

学生さんは、小さい頃から受験勉強に慣らされて来ているので、知識の暗記には長けているようですが、熟考して新たな知識を産み出すことには慣れていない人が多いようにも見受けられます。まず、基礎知識をしっかりと身に付けて、専門的な知識を摂取し、そして、新知識の創造に喜びを見い出せるような大学生活を送って欲しいものと思っています。月並みですが……。

(おおた・かつや 知識情報・図書館学類 教授)

## 図書館情報専門職に対するイメージ

永田 治樹

これまで、小説やドラマの中で図書館員といえば、本の出し入れなどをこなす、地味でうっ屈していそうな人物が描かれていることが多い。実際の図書館員はおおかたそれとは違うが、外の世界からみればそのように見えるらしい。人の口に戸はたてられないから、わたくしたちはどのようにすればいいのだろうかと考えてみた。

知識情報・図書館学類のカリキュラムをみると、かなり幅のある知識・技能の習得が予定されている。広く深い見識を持って欲しいという趣旨である。だから風刺の材料を提供するような、バランスを欠いた科目選択は避けたい。ここでバランスとは、「専門馬鹿」にならない平衡感覚といった意味である。しかし、もうひとつある。

たとえば貴重な典籍の整理を学ぶにしても、コンピュータ技術の習得にしても、それぞれエキスパートになってもらいたいものだが、そこで扱われている主題そのものへの理解が不可欠であることを強調しておきたい。わたくしたちの学類の学習内容は資料の形式や情報技術などメディア側の理解に重心がいき、知識・情報内容への関心が手薄になりがちである。そのため知識・情報を扱う技術面の判断のみに頼って、一方では旧態を墨守する保守的な姿勢がとられたり、他方では情報化ですべてが解決されるような能天気な未来予測が現れたりして、バランスの悪い状態となる。

図書館専門職には、なによりも人々、そして社会の知識・情報を受け継いでいくことへの貢献が要求されているのであり、これから学ぶみなさんには、伝えられる知識・情報そのものをまず理解すること、そして、技術としては伝統的なものも先進的なものも習得するといった学び方をしてもらいたいのである。

状況は変わりつつある。最近発刊された小説『決壊』（平野啓一郎著・新潮社刊）の主人公の図書館員はこれまでであったようなステレオ・タイプではない。人々にどのようなイメージを結ばせるかは、これからのみなさんにかかっているように思う。

（ながた・はるき 知識情報・図書館学類 教授）

### 木川田 朱美氏(博士前期課程)の研究が東京新聞で紹介されました！

筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科 博士前期課程の木川田 朱美さん（辻 慶太准教授指導）による成人向け出版物に関する研究が、「国会図書館“地下コレ”」と題して東京新聞に掲載されました。（詳細は、図書館情報メディア研究科ウェブページをご覧ください。  
<http://www.slis.tsukuba.ac.jp/grad/news/tokyo.png>）



## 身近なところでの些細な発見

小野寺 夏生

つくば駅と春日キャンパスの間にある中央公園の中を通る道に沿って、太陽とその惑星の彫像が建っている。これらの像は、実際の星間距離に比例するように建てられているので、太陽から火星までの5つの像は接近しているが、他はかなり離れている。一番奥には、今は惑星でなくなった（科学的には前からそうだった訳だが）冥王星の像も残っている。

10年あまり前に筑波に来て、この道を歩きながらある発見(?)をした。太陽から土星までと、その後の各惑星間の距離（土-天、天-海、海-冥）がほとんど同じなのだ（私の通常の歩幅でいずれも約60歩）。また、木星は太陽と土星のほぼ中間、つまり太陽から30歩である。理科年表などを見るとその通りで、太陽と地球の距離（軌道半径）を1とすると、木星、土星、天王星、海王星、冥王星の軌道半径はそれぞれ5.2、9.6、19.2、30.1、39.4である。この規則性は多分偶然の結果だろうが、ひょっとしたら何か意味があるのかもしれない。遠方の太陽系天体の軌道半径を予測するカイパーベルト仮説というものもある。

これを発見というにはごく些細なことで、もっと探求してみようという気もない。それでも、身近に見聞きしたことから規則性や法則性を見つけ出すのは楽しいし、頭の訓練にもなる。さして難しく考えずに、心がけてみてはいかがですか。

（おのでら・なつお 知識情報・図書館学類 教授）

この一年間、私たち一年次生は、フレッシュマン・セミナー、情報リテラシ実習と、クラスに分かれて実習を行ってきました。情報リテラシ実習では、パソコンを使ったり、実地に赴いたりして情報を集め、それを精査し、クラスの皆の前で発表するという過程を繰り返すことで、情報を活用する能力を身につけられたと思います。

特に、筑波実験植物園を訪れて小学生向けのパンフレットを製作する課題は、受け手を意識して情報を編集することのよいきっかけとなりました。思いがけず最優秀作品に選んでいただき、どうすれば小学生の興味をひけるかと頭を悩ませたことを思い出します。



写真は一緒に受賞した浜田 花林（はまだ・かりん）さん、辺見 知代（へんみ・ともよ）さんと写していただいたものです。お二人の作品はそれぞれ独自の工夫がされており、感心することばかりでした。今回の受賞を励みに更なる精進をしていきたいと思ひます。

（いしの・なつみ 知識情報・図書館学類1年次）

**私の1年  
実習でスキルアップ!**

石野 夏海